

公益社団法人京都染織文化協会
令和4年度 事業報告

1. 会員の加入及び退会

	期首	加入	退会	期末
会員数	39	0	1	38

加入商社：なし

退会商社：(株)市原亀之助商店

2. 会務

■第74期通常総会

令和4年 5月23日	ホテルオークラ 京都	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和3年度事業報告承認の件 2. 令和3年度決算報告承認の件 3. 令和4年度事業計画(案)承認の件 4. 令和4年度収支予算(案)承認の件 5. 定款の別表変更の件 6. 役員変更の件
---------------	---------------	---

■理事会

令和4年 4月19日	京都経済センター	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和3年度事業報告の件 2. 令和3年度収支決算報告の件 3. 定款別表変更の件(レプリカ完成に伴う基本財産数量変更) 4. 役員変更の件
---------------	----------	---

6月24日	書面決議	<ol style="list-style-type: none"> 1. 常務理事の選任について 2. 退職金規程の改訂について
-------	------	---

9月13日	書面決議	<ol style="list-style-type: none"> 1. KPA 京都プリント振興協会主催『メイキング・ワークショップ2023』に対する当協会の共催名義使用許可並びに助成金(50万円)の交付承認について
-------	------	---

令和5年 3月15日	からすま京都 ホテル	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和5年度事業計画(案)の件 2. 令和5年度収支予算(案)の件 3. 流動資産から定期預金への移行の件 4. 代表・業務執行理事の職務執行報告の件 5. 役員改選の件 6. 第75期通常総会日程の件(5月23日於：からすま京都ホテル 2F 桃李) 7. 「全国染織産地合同制作布地」の寄託並びに参考資料寄贈の件 8. 染織技術等継承に関わる助成申請の件 <ol style="list-style-type: none"> ①映画「お蚕さまセヴェンヌ」製作(「お蚕さまセヴェンヌ」製作委員会) ②ろうけつ染めによる作品展 (公益財団法人和光市文化振興公社)
---------------	---------------	--

3. 実施事業

■公益事業

(1) 染織文化資源の保全と啓発事業

当協会が基本財産に位置付ける「染織祭衣装」と「全国染織産地合同制作布地」を保全するとともに、これら所蔵資料にみる染織技術の公開や資料そのものの一般公開により一般社会に伝える知識普及啓発を目的とし、下記事業に取り組んだ。

* 「染織祭」の詳細調査並びに公開

当事業は、昭和6年～26年に挙行された染織祭について北野裕子氏(龍谷大学 非常勤講師)に調査を依頼し、現存する史料や文献、ヒアリングなどから当時の社会・経済背景、染織祭挙行の経緯、衣装制作の詳細を明らかにすることで、いまだ認知の薄い染織祭と復元女性時代衣装の存在を一般に広く知ってもらい、染織文化・染織技術を継承する目的で取り組んでおり、今年度は次の通り調査を行った。

<今年度調査先>

- ・文献調査—龍谷大学大宮・深草図書館、京都府立京都学・歴彩館
- ・資料調査—平安神宮、(一財)京染会

<調査成果>

- ・4/11 日本経済新聞より取材を受け 5/3 文化面に「京都染織祭 恐慌期の盛衰」と題した記事が掲載されたことで、一般社会に広く啓発することができた。
- ・月刊誌「加工技術」において染織祭に関する記事の監修を行い、購読者への啓発を行うことができた。
- ・12/6、12/13、R5. 1/17 に平安神宮資料収蔵庫に於いて資料調査を行い、染織祭運営に関わる新たな資料を入手することができた。
- ・12/9、12/16 に(一財)京染会事務所内において資料調査を行い、染織祭に参加した団体の運営に関わる資料を入手することができた。
- ・調査により明らかになった内容は、当協会ウェブサイト並びにインターネット上で展開するフリー百科事典『Wikipedia』に追加掲載して一般社会に啓発した。

<入手資料>

戦後の洋装普及の実態を調べるために下記書籍を購入した。

「キモノ図案からプリントデザインへ—GHQの繊維産業復興政策—」／思文閣出版

* 染織祭衣装台帳のデータベース化

手書きで作成された143領分の衣装台帳をデジタルデータに移行し、併せて衣装のあらゆる情報を一括に纏め端末上で管理する環境を整備するため、今年度は次の通り取り組んだ。

<今年度の取組み>

- ・マイクロソフト「アクセス」を使用したデータ集約作業

* 染織祭関係史料の公開

当協会が保管する染織祭関係史料データをウェブサイト上で公開した。

<今年度公開史料>

- ・衣裳貸与台帳(昭和8年以降) 7ページ
- ・時代行列衣裳貸与契約書綴(昭和8年以降) 356ページ

* 染織技術アーカイブの作成に伴う資料調査と公開

当事業は所蔵資料に使われた染織技術の記録と解説を行い、その内容をウェブサイト上で染織技術アーカイブとして纏めて公開する目的で行っており、今年度は次の通り公開した。

(新規公開内容)

「全国染織産地合同制作布地」 1995/1996 年秋・冬物向布地 11 点

公開技術「織る」……ポーラ、ガーゼ、ジョーゼット、ビーバークロス、モッサー、ピケ

「装飾・加工」……意匠糸

※染織祭衣装は平成 29 年度をもってすべて公開済。

* 染織祭衣装の補修・修繕並びにレプリカ制作

◎補修・修繕

当協会が設定する「傷みの 5 段階評価」に基づき、引き続き次の通り補修を依頼した。

<対象衣装>

鎌倉時代 9 号「桂」(令和 2 年度より継続)

<依頼先>

松下装束店(京都市中京区)

◎新調

<対象衣装>

鎌倉時代 14 号・16 号・17 号・21 号「帯」

室町時代 1 号・6 号・7 号「帯」

<依頼先>

藤井絞(株)(京都市中京区)

◎レプリカ制作

衣装の劣化に伴う将来の備えとして、また職人による技術復興・継承の機会としてレプリカの制作を 2 年計画で行っている。

<対象衣装> ※令和 4 年度(一財)京都染織会館助成金対象事業

江戸時代初期 2 号「白縮緬地竹垣団扇文様振袖」の制作/2 年計画の 1 年目

<協力先>

京鹿の子絞振興協同組合/京都府織物・機械金属振興センター

<取り組み>

- ・京都府織物・機械金属振興センター指導のもと、生地の復元に取り組んだ。
- ・今年度は生地制作、地染、下絵、糊置、手描友禅の工程を終了。次年度より墨絵、金彩、刺繍の工程を行う。
- ・「第 73 回丹後織物求評会」(2022. 10/18-23 於：丹後織物工業組合)において令和 3 年度完成の室町時代 5 号・9 号の新旧衣装の展示公開を行った。

* 所蔵資料貸付協力

◎「今夜はナゾトレ」への動画提供協力

依頼先 フジテレビ

目的 「丹後ちりめん」の制作工程を紹介するための資料映像

放映日 令和 4 年 11 月 1 日

提供動画 インターネットミニ染織講座内の撚糸工程動画

◎「京鹿の子絞パンフレット」への画像提供協力

依頼先 京鹿の子絞振興協同組合

目 的 京鹿の子絞の工程説明の参考資料として掲載

提供画像 室町時代5号・9号・12号、桃山時代6号の新旧衣装8点

◎「都をどり創始150年・歌舞練場新開場記念 祇園甲部と都をどり」への画像提供協力

依 頼 先 京都新聞出版センター

目 的 昭和初期、祇園甲部が染織祭に参加したことを紹介。

提供画像 染織祭グラフより1点

* 所蔵品カタログの再版

当協会では染織祭衣装並びに道具等所蔵品のカタログを制作し、美術館等に配布して認知を広めているが、在庫が切れたため、今年度は再版を行った。(38P オールカラー100冊)

* 全国染織産地合同制作布地の公益的な取組みとしての寄託並びに寄贈

当協会が所蔵する全国染織産地合同制作布地 1,089 点は、全国の染織産地の技術力と京都の意匠力を結集させ制作されたものであるが、中には産地の衰退もあって現在は再現できないものも含まれている。貴重な技術資料である布地の公益的活用の取組みとして、下記の通り寄託並びに寄贈を行った。

< 寄託 >

寄託物：「全国染織産地合同制作布地」サンプルブック 21 冊(1,089 点)

寄託先：京都府織物・機械金属振興センター(京都府京丹後市)

< 寄贈 >

1. 寄贈物：「全国染織産地合同制作布地」ハンガーサンプル 1,089 点

寄贈先：京都府織物・機械金属振興センター(京都府京丹後市)

2. 寄贈物：「全国染織産地合同制作布地」ハンガーサンプル 1,089 点並びに残布

寄贈先：嵯峨美術大学(京都市右京区)

< 活用方法 >

1. 京都府織物・機械金属振興センター

・同センター内A棟デザイン開発室にて寄託並びに寄贈資料を展示し、常時一般公開

・布地の研究、地元機業に向けての勉強会の検討

2. 嵯峨美術大学

・布地情報の収集と蓄積

・上記をデジタルアーカイブ化し、染織専攻の各大学と連携をはかり情報共有

■ 染織技術復興に向けての取組み

全国には継承が途絶えた染織技術が数多くあり、近年その技術を復興させようという動きが各地で起こりつつある。それを踏まえ当協会において技術面や啓発面などからの復興支援を行うなど、染織技術の継承と豊かな染織文化の提案を目的に次の通り行った。

< 今年度取組み >

- ・ドキュメンタリー映画「紅花の守り人 いのちを染める」の全国上映に伴い、上映 PR 協力として、当協会会員にちらしを配布するとともに、フェイスブックにより周知をはかった。(2022.10/28-11/3 於：京都シネマ)

■ 染織資料寄贈受入れ

2019年に閉鎖したユニチカ記念館(尼崎市)が、2023年4月に尼崎市に所有移管されるにあたり、館内にある染織資料の中から下記の通り書籍の寄贈を受けた。今後当協会において染織資

料の参考文献として活用していく。

<寄贈書籍>

- ・「職人繪盡 天」／吉川弘文館
- ・「世界模様図鑑 日本の模様と色調」／河出書房
- ・「日本染織総華 小袖」／文化出版局
- ・「日本染織総華 小紋」／文化出版局
- ・「日本美術大系第8巻 染織」／講談社
- ・「和装小物の史実」／和装小物の史実出版委員会

(2) 染織技術等継承事業

日本の染織技術を次代に継承していくために、染織に馴染みの薄い人たちにあらゆる方法でもって伝えることで認知と理解を深め、将来携わる人々を増やす目的で次の事業に取り組んだ。

*** 子ども向け染織技術啓発冊子の配布**

きものをより身近な衣服として受け止めてもらうと共に、きものには様々な技術が使われていることをわかりやすく伝え、染織技術の一端を知ってもらうことを目的に小冊子を制作し、七五三詣りのシーズンに下記の通り配布した。

<配布先>

高島屋6店舗(日本橋・新宿・横浜・名古屋・大阪・京都)の呉服売り場 合計300冊

*** 染織文化セミナーの開催**

◎「戦後日本の洋装ファッション史と今一流行と社会一」

日 時 11月18日(金) 14:00~16:00

講 師 本橋 弥生 氏(京都芸術大学 教授)

会 場 からすま京都ホテル2階 双舞の間

内 容 戦後日本のファッションの変遷と社会を反映した現代と今後を紹介

受 講 料 無 料

広 報 (会員・関係団体・美術館等)当協会より案内送付

(一般)10/26 京都新聞夕刊に広告掲載。ウェブサイト、フェイスブックで告知。

受講者数 当協会会員、関係団体、美術館、一般 32名※感染拡大防止のため50名限定

◎「日本の絹を考える 一製糸業の現状と宮坂製糸所の取り組みについて一」

日 時 令和5年3月15日(水)14:00~16:00

会 場 からすま京都ホテル3階 瑞雲の間

講 師 高橋 耕一氏(株式会社宮坂製糸所 代表取締役)

内 容 製糸の現状と取り組みについて紹介

受 講 料 無 料

広 報 (会員・関係団体・美術館等)当協会より案内送付

(一般)2/17 京都新聞夕刊に広告掲載。ウェブサイト、フェイスブックで告知。

受講者数 当協会会員、関係団体、美術館、一般 42名※感染拡大防止のため50名限定

*** インターネットミニ染織講座の開催**

当協会ウェブサイト内において、衣装レプリカ制作工程を撮影した動画を制作し、

インターネット動画共有サービス『YouTube』にアップロードし相互リンクして当協会ウェブサイトの閲覧を促した。

◎衣装複製制作プロジェクトシリーズ

- ①「江戸時代初期2号 撚糸工程」(更新日:5月17日)
- ②「江戸時代初期2号 整経工程」(更新日:5月25日)
- ③「江戸時代初期2号 織り工程」(更新日:5月26日)
- ④「江戸時代初期2号 地染め(引染)工程」(更新日:9月27日)
- ⑤「江戸時代初期2号 下絵工程」(更新日:12月22日)
- ⑥「江戸時代初期2号 糊置工程」(更新日:令和5年2月3日)
- ⑦「江戸時代初期2号 手描友禅工程」(更新日:令和5年3月9日)

(3) 染織技術等継承に関わる助成事業

染織技術を継承し一般社会に啓発していくことを目的とし、当協会助成規定に基づき次の事業への助成を行った。

◎KPA 京都プリント振興協会「メイキング・ワークショップ 2023」への共催

会 期	11月11日(金)～13日(日)10:00～17:00
会 場	京都府京都文化博物館別館(中京区三条高倉)
出展者	15社 25組
内 容	染色業に携わる職人の創造力、技術力の向上を図るため、制作の機会、発表の場を提供した。今回は「京都±ECO」をテーマにサステナブルなプリントを訴求し、色・プリント技術での意匠表現に挑戦したプリント服地の提案を行った。当協会からは共催名義使用許可、助成金50万円の交付、京都染織文化協会理事長賞の下付を行った。

入場者数 1,168名

■会員事業

*会員のための啓発事業

◎展覧会招待

<招待展覧会>

- ・「新選組 2022」展(10/1～11/27 京都文化博物館)
- ・「ピカソとその時代」展(2023.2/4-5/21 国立国際美術館)

*京都プレス事業

当事業は染織品の発展と更なる需要を促すために、伝統的な染織技術と先端技術を融合させた新しい素材の開発と加工に取り組み、市場での反応を調査した後、その技術と情報を会員商社にフィードバックする目的で行っている。今年度も和装素材の新しい提案としてシルクオパール糸の開発並びに織物の制作を京都市産業技術研究所、京都府織物・機械金属振興センターの協力により、引き続き取り組んだ。

*会員助成事業

歴史ある染織技術を継承し発展することを目的に、会員の企業活動に対する助成金拠出については、令和元年度末に行った資産取崩の影響から脱却できていないことから、今年度は中止した。